



得意を生かして苦手をサポート 障がい者が当たり前になれる社会づくりを

【プロフィール】

福岡県出身。自身の子どもに障がいがあるとわかったことを機に、西部ガスを45歳で退職。社会福祉士の資格を取得し、2014年に合同会社絆結を設立。2017年には西部ガスの特例子会社となる。

西部ガス絆結(株) 代表取締役社長 船越 哲朗氏

次男の誕生が人生の転機に 障がい者就労支援の道へ

企業から請け負った仕事を通じて、障がい者の就労支援を行う福岡県春日市春日公園の西部ガス絆結(ばんゆう) (株)。ダイバーシティが求められる現在、障がいがあっても当たり前になれる社会づくりを目指しています。その起業の背景には、代表取締役社長である船越哲朗さんの“当事者”としてのニーズがありました。

船越さんの3人目の子どもに、知的障がいと発達障がいがあることが判明。将来を考え、障がい者の雇用などを調べた際に愕然としたそうです。「大人になって福祉作業所で働いても、当方で月額8,000円という給料。これ

では私たち親が死んだあと、ほかの兄弟たちに頼らざるを得ません。それを解消するためには、障がいがあっても普通に企業で働くことができる社会をつくらなければならないと感じました」。それから、船越さんは45歳の時に勤務していた西部ガスを退職し、1年間専門学校に通って社会福祉士の資格を取得。全国の作業所や障がい者雇用に注力する企業などを訪問しながら事業構想を練って立ち上げたのが、就労支援サービス事業を中心とした合同会社絆結です。同年、春日市に就労訓練を行うワークオフィス絆結を開設。2017年にはその取組が認められ、M&Aで西部ガスの子会社となり、西部ガス絆結(株)と社名変更。現在では西部ガスグループ全体の障がい

者雇用を担っています。

その躍進を支えた力は、船越さんの思いだけではなく、事業の特徴にもありました。「ずっと福祉に携わってきたわけではなく、企業に勤めてきたからこそ企業が求める人材やスキルが理解できるという点は、従来の就労支援事業者と大きく違うポイントです。また仮想の業務で訓練を行うのではなく、本物の仕事で訓練することはひとつのこだわり。納期もあればクオリティも求められる。そうでなければ実際に企業で働けるようになるための訓練にはなりませんから」と船越さん。2021年7月までに42名が29社に就職するなど着実に成果を上げています。



1



2



3



4

1 ワークオフィス絆結では高卒者を対象としたカレッジコースから、就労移行支援のみに取り組むビジネスコースまで、3段階のコースを設定

3 パピヨンビルにあるコピーセンター絆結ではワークオフィス絆結の卒業生たちが働く。「障がいがあってもポテンシャルは高い」と船越さん

2 企業から依頼されるのは仕事に欠かせない封筒や名刺、各種ノベルティ制作など。西部ガス絆結はデザインから携わっている

4 西部ガス絆結は「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞で実行委員会特別賞を受賞するなど、外部からも高い評価を受けている

多様性を理解して 企業とマッチング

西部ガスグループに加入した後は、福岡市博多区千代のパピヨンビルに印刷などのビジネス周りの業務を請け負うコピーセンター絆結をオープン。企業が使用するノベルティ制作も行ない、障がいがある人たちがデザインや写真撮影、受発注とさまざまな仕事に携わっています。ワークオフィス絆結で就労訓練を終えた障がい者のスタッフも多数働いています。

「一般的には障がいがあるから営業はできない、大事な仕事は任せられないという固定観念があることも事実です。ですが当社では得意を仕事とつなげ、苦手なことはサポートし合い、結果として生産性をアップしています。障がい者の雇用は、それぞれの個性や強みを理解して、支え合いながら仕事に取り組むことが重要」と船越さん。

西部ガス絆結では、障がいをひとつの苦手さと捉え、苦手を補い合うようにペアで業務を進めています。「障がいの有無に関わらず、得意なことは自信を持って取り組みますし、何より楽

しく仕事ができると思いませんか」と笑顔を見せます。

仕事の次は住まいづくり ニーズが事業を生み出す

現在、就労支援に次いで展開しているのが、特別支援学校や高校を卒業した人を対象としたカレッジコース。これも船越さんの“当事者”ニーズに応える形で生まれた取組です。

「障がいのある子どもたちは特別支援学校を卒業してしまうと、それ以降の受け皿がなく社会に放り出されてしまいます。18歳という年齢で、企業で働くか、作業所で訓練を受けるかを選ばざるを得ず、成長が緩やかな彼らにとっては早すぎる判断だと思えます。そこで、あと4年ほどかけて電車の乗り方などの社会生活に必要なスキルや料理といった家事を身につけ、それから働くための意識やスキルを養っていく。そうした社会に出るための準備期間が必要です」。

今後は、仕事だけではなく住まいの問題にも事業を拡大したいという船越さん。「訓練をして働くというところま

では形ができましたが、次は暮らす場所が必要。仕事と生活は両輪ですから。グループホームで支援をしてもらいながら一人暮らしを経験していくという方法がありますが、グループホーム自体、社会に圧倒的に足りていません。ですから社員寮のようなイメージで、当社の社員や訓練を受けている人、絆結を卒業して他の企業で働いている人たちが暮らす場所を提供したい」と意気込みます。西部ガス絆結が目指す多様性を認め合う社会づくりへの挑戦は、これからも続いていきます。

取材日：3月31日



西部ガス絆結(株)

コピーセンター絆結
〒812-0044 福岡市博多区千代1-17-1
パピヨン24ビル B1F
TEL 092-645-0351
<https://www.copycenter-banyu.jp/>